

Press Release

報道各位

2021年4月30日
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
公益財団法人ミモカ美術振興財団

猪熊弦一郎展 いのくまさんとニューヨーク散歩 FEELIN' GROOVY! : Walk Around New York with Genichiro Inokuma 2021年6月19日 [土] ~9月5日 [日]



写真提供 文藝春秋

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館（^{ミモカ}MIMOCA）は、猪熊が愛したニューヨークの街に着目した企画展を開催します。猪熊のニューヨーク時代の作品、自身が撮影した映像や写真、大量に所蔵していたダイレクトメールなどの資料を通して、猪熊が生きていた時代のニューヨークを体験できる展覧会です。

プレス関係の皆様には広く告知いただきたく、お願い申し上げます。

■本展について

猪熊弦一郎（1902-93）は、1950年代半ばから約20年間ニューヨークで活動しました。

第二次世界大戦後のニューヨークは活気にあふれ、世界中から多様なアーティストが集まって、パリに代わる芸術の拠点となっていました。1955年、猪熊は戦前に暮らしたパリへ向かう予定で日本を発ちますが、途中立ち寄ったニューヨークにすっかり魅了され、パリ行きをとりやめてこの街に居を構えました。

世界有数の美術館やギャラリーで名画や最先端の美術を鑑賞し、高層ビルや斬新な建築物を眺め、パレードや路上ライブを楽しみ、路地裏の落書きを夢中で撮影するなど、猪熊はニューヨーク暮らしを堪能します。

環境の変化は作画にも影響を与え、渡米後、猪熊の表現は具象から抽象へと様変わりしました。そして、ウィラードギャラリーの所属作家として個展を10回開催するなど精力的に新作を発表し続けました。

本展覧会では猪熊のニューヨークでの画業を作品や資料によってその時代背景を含めてご紹介します。猪熊弦一郎が見ていたニューヨークの街を散歩するように展覧会をお楽しみいただけることでしょう。

■本展の見どころ

（1）展覧会を「編集」する

本展では、「編集長」として、これまで数々の雑誌や書籍を編集、執筆してきた編集者の岡本仁氏を、「副編集長」として、長年ニューヨークに暮らし、展覧会のキュレーションや執筆等で欧米の近現代の芸術文化を日本に伝えてきた河内タカ氏を迎え、展覧会を「編集」していただきました。猪熊のニューヨーク時代の画業と当時のニューヨーク文化が、両氏が選んだ猪熊作品と資料によって、雑誌をめくるように楽しくテンポ良く紹介されます。また、カタログのかわりに、両氏編集、執筆による32ページのタブロイド紙を発行します。

（2）猪熊弦一郎が撮影したニューヨークの映像を初公開

猪熊が8ミリフィルムで撮影したニューヨークの映像を5本、初公開します。当館が所蔵する猪熊由来の8ミリフィルムは約140本あり、その多くがニューヨークで撮影されたものです。画家の目が捉えた1950年代から60年代にかけてのニューヨークの様子を、貴重なカラー映像でご覧いただけます。なお、これらの8ミリフィルムは、2018、19年度の改修工事による長期休館の際に調査とデジタル化を行い、今回の公開にいたしました。

（3）猪熊弦一郎が所蔵していた大量のダイレクトメールを初公開

ニューヨークで暮らすあいだ、さまざまなギャラリーから送られてきた展覧会の案内状やポスターを、猪熊は大量に保管していました。当時のニューヨークのアートシーンが凝集されたこれらのダイレクトメールを、ギャラリーごとに束にして展示します。猪熊がニューヨークで日々刺激を受けていた最先端のアートを物量的に体感していただけます。

■開催概要

- 展覧会名 | 猪熊弦一郎展 いのくまさんとニューヨーク散歩
FEELIN' GROOVY! : Walk Around New York with Genichiro Inokuma
- 主催 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団
- 会場 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
- 会期 | 2021年6月19日(土)~9月5日(日)
- 開館時間 | 10:00~18:00(入館は17:30まで)
- 休館日 | 月曜日(8月9日は開館)、8月10日
- 入館料 | 一般950円(760円)、大学生650円(520円) 常設展の観覧料含む
高校生以下または18歳未満・丸亀市在住の65歳以上・各種障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料
※()内は前売り及び20名以上の団体料金

同時開催

常設展「猪熊弦一郎展(仮)」

入館料 : 一般300円(240円)、大学生200円(160円) ※企画展の観覧料は別途

■プロフィール

猪熊弦一郎(いのくまげんいちろう)

1902年香川県高松市生まれ。東京美術学校で藤島武二に師事。画家として、戦前はパリ、戦後は東京、ニューヨーク、ハワイと国内外で活動する。1991年故郷に丸亀市猪熊弦一郎現代美術館が開館。1993年逝去、90歳。

岡本 仁(おかもとひとし)

マガジンハウスにて『BRUTUS』『relax』『ku:nel』などの雑誌編集に携わったのち、2009年にランドスケーププロダクツに入社、企画やブランディングなどを担当。並行して執筆や編集の活動も行う。本年7月より霧島アートの森(鹿児島)にて特別企画展「岡本仁展 楽しい編集って何だ?」を開催予定。

河内タカ(かわちたか)

サンフランシスコのアートカレッジを卒業後、ニューヨークを拠点に展覧会のキュレーションや写真集の編集などを数多く手がける。30年に渡る米国暮らしの後、2011年に帰国。著書に『アートの入り口アメリカ編』(2016、太田出版)、『芸術家たちII[ミッドセンチュリーの偉人編]』(2019、AKATSUKI PRESS)など。

■関連プログラムについて

親子で MIMOCA の日

2021年7月10日（土）、11日（日）

子どもが芸術に触れる機会を増やすことを目的として2020年度より開始しました。この日は高校生以下または18歳未満の観覧者1名につき、同伴者2名まで観覧無料となります。

■広報用画像について

出展作品の画像を広報用にご提供いたします。

ご希望の方は下記 URL からお申し込みください。

<https://www.mimoca.org/ja/press/>

画像一例



猪熊弦一郎《The City (Green No.4)》
1968年



猪熊弦一郎《タクシー》
「小説新潮」表紙絵 1960年5月号



猪熊弦一郎《題名不明》1960年



《セントパトリックデー》1959年
撮影：猪熊弦一郎



《アトリエの窓》1962年
撮影：猪熊弦一郎



《我家の裏庭》1958年 撮影：猪熊弦一郎

【お問い合わせ先】
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
公益財団法人ミモカ美術振興財団
企画展担当：古野華奈子 広報担当：奥本未世
〒763-0022 香川県丸亀市浜町80-1
Tel. 0877-24-7755 Fax. 0877-24-7766
www.mimoca.org E-mail. press@mimoca.org

画像6点は全て©公益財団法人ミモカ美術振興財団